

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



2001.

11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 211

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 草加付近の野鳥

## 1 はじめに

本文は、野鳥を通しての思い出と自宅付近の野鳥の現状について綴ったものである。

私が草加を最初に訪れたのは、昭和27、8年、中学生の頃だった。上野から都電に揺られ終点の北千住で下車、荒川の土手で野鳥や野草と戯れた後、対岸に渡った。東武電車が見えたので五反野駅まで歩き、ちょうど下り電車が来たのでそれに乗ってしまった。車窓に広がる水田と島のように点在する農家の屋敷林に白鷺が舞う光景を眺めて、思わず草加駅で降りてしまった。そして、白鷺の群がる水田と農家に近づき、其処此処に餌を漁る姿と優雅な舞いに感動してしまった。

私の実家は東京本郷で、子供の頃は不忍池や東大構内が遊び場だったので、野鳥とは日頃から親しんではいたが、この情景には大変印象が強く、今でも「草加の野鳥」を語る場合は私にとってのこの白鷺が原点なのである。

草加に私が移住したのは昭和41年だった。経済は高度成長期で休む間もなく働き、振りかえると草加の東京人となって既に30年の歳月が経過していた。

5年前、心臓発作で入院。回復期には病院前の根津神社境内の散歩が日課で、好天の日たまたま不忍池まで足をのばしたところ、ミコアイサがオナガガモ、キンクロハジロ、ユリカモメに混じって見物人の与えた餌を奪い合っていた。これを見て、もう仕事は辞めて学生の頃に会員だった「日本鳥学会」や「野

土澤 明 (草加市)

鳥の会」に再入会しようと思いつき、退院後さっそく日本野鳥の会埼玉県支部に入会した。

## 2 草加及び自宅付近の環境

草加市は埼玉県の南東の端にあり、起伏は全くない真っ平らな低地である。現在、人口は約23万人、水田は北東部の柿の木地区を除いて僅かに残る程度、また公園らしい公園は、同じく北東部にある約18ヘクタールの広さを持つ草加公園だけである（3ページの地図参照）。また自宅は南西部の新里町にある。

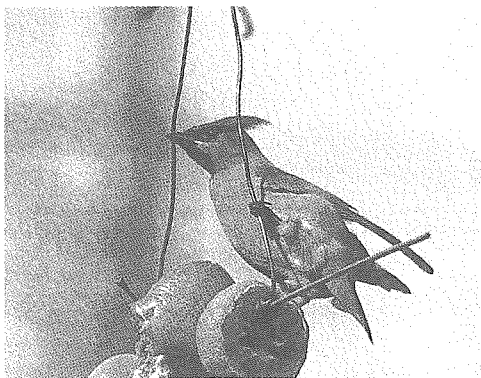
移住してきた当時は、自宅に居ながらにして終日白鷺をはじめ野鳥と親しめる環境だった。自宅の南側は平屋の住宅が2軒でその先は水田、東は水田に面し500メートル先の道路まで見渡せた。北側は屋敷林のある農家、その後ろには昔から「ムジナの森」と呼ばれる森が広がっていた。そこは大木が鬱蒼と生い茂る無人の屋敷で、広さも1ヘクタールぐらいあった。西側は道路、その向こうは畑と東京に隣接する毛長川であった。

しかし、35年の歳月はすっかり様相を変え、我が家の回りはすべて2階または3階建ての住宅で埋まり、「ムジナの森」は北東部の大木の一部を残し、今は約450世帯が住む14階建てのマンションと化してしまった。

## 3 野鳥棲息の変化

4ページの表は、自宅近くの東京都足立区との隣接部分の記録も含んでいるが、主に草加市南西部を中心にした記録と地元の公民館が実施したバードウォッチングの参加時の記録で作成した。

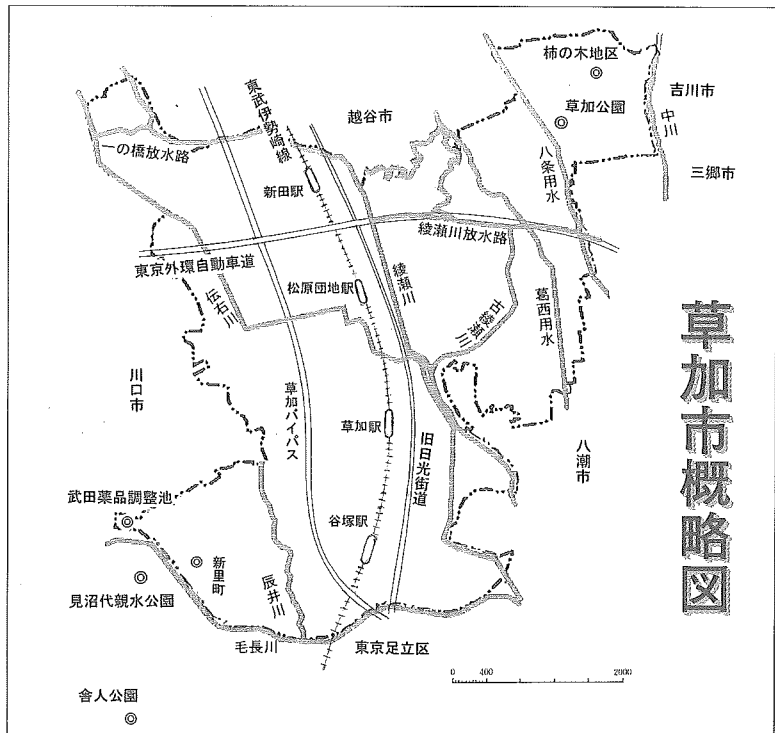
昭和40年代のわが家の周辺は殆ど環境の変化なく、自宅に居ながらにして野鳥と親しめた。窓の下にはコサギ、チュウサギ、コチドリ、タゲリ、タシギ、クイナ、バン、カモ類等が来てくれた。春には畑からヒバリが囀りながら飛び立ち、庭ではキジバトが営巣し、秋にはモズが縄張り主張を叫んで庭の木にカエルやバッタを刺し、冬場はジョウビタキ、



自宅に来たキレンジャク

ツグミ、ウグイス、メジロ、シジュウカラなどは毎日必ず来てくれた。「ムジナの森」ではコジュケイが甲高い鳴き声を上げながら歩き回り、オナガやヒヨドリが賑やかだった。トラツグミ、シロハラ、サンショウクイ、アカゲラ、アオゲラも観察したことがあった。5月になるとアオバズクがクスノキやスダジイの大木にやって来て鳴きだし初夏を告げてくれたし、クイナも庭先まで来て鳴いてくれた。空ではトビが舞い、ハヤブサ、チョウゲンボウ、猛スピードで飛び去るアマツバメ、何処かへ集団で餌を漁りに往復するの横一列に長い帯をつくってカワウの群が北へ南へ朝夕に通過していった。毛長川に沿ってユリカモメが飛び交い川面で羽を休めることもあった。夏の川岸に葦が伸びるころオオヨシキリの声が騒々しい程響いた。土手ではキセキレイの子育ても見られた。

では現況はと言うと「ムジナの森」がなくなって10数年が経った。アオバズク、コジュケイは10年前に姿を消した。もう声も聞かない。トビもヒバリもいない。灌漑用水が流れていた毛長川は下水化し、フェンスが張りめぐらされた。自宅の周りも住宅で埋まった。畑も残り少なくなったがまだ屋敷林は残っている。一昨年は初めてキレンジャクが自宅の庭に来て5日間滞在してくれた（2ページの写真）。庭のコブシの木には今年もコゲラが番いで来てくれた。そして近所のハンノキに孔をあけたコゲラの巣も見つけた。メジロも、ジョウビタキも、ウグイスやアオジ、シジュウカラは今でも毎年やって来る。スズメ、カラス、ムクドリ、ヒヨドリ、オナガ等は常時庭へ来ている。近所の池では今年もアオサギ、



ゴイサギ、カワウ、マガモ、コガモ、カルガモ、ハシビロガモ、カイツブリ、バン、タシギ、キンクロハジロ、ホシハジロ、カワセミ、ユリカモメ、ハクセキレイなどが観察出来た。

#### 4 まとめ

私が草加に住んで35年間に観察できた野鳥は、別表の通り69種だった。但し一度だけしか観察出来なかったのは、トラツグミ、サンショウクイとキレンジャクの3種だった。また昭和の時代と平成に入ってから観察できた種数を比較すれば17種も減少していた。

日本中各地で言えることだが、特に草加市は高度成長期時代に宅地、工場用地の乱開発のスピードに環境保護の対策が打てず、自然環境の破壊を防ぎきれなかった。辛うじて草加公園が造成出来ただけだった。

しかし、一度失った自然環境を元に戻すことは至難の技である。これからは野鳥が安心して棲息出来るビオトープなどを各所につくり、少なくとも観察できる野鳥の種数を昭和時代に戻す努力を行政に働きかけ、活動したいと考えている。

### 草加で出会った野鳥たち

(昭和は41年から63年、平成は元年から13年の間に観察できた種を○×で示す)

No.	種名	昭和	平成
1	カイツブリ	○	○
2	カワウ	○	○
3	ゴイサギ	○	○
4	アマサギ	○	×
5	ダイサギ	○	○
6	チュウサギ	○	○
7	コサギ	○	○
8	アオサギ	○	○
9	マガモ	○	○
10	カルガモ	○	○
11	コガモ	○	○
12	ヨシガモ	○	○
13	ヒドリガモ	○	×
14	オナガガモ	○	○
15	ハシビロガモ	○	○
16	ホシハジロ	○	○
17	キンクロハジロ	○	○
18	トビ	○	×
19	ハヤブサ	○	○
20	チョウゲンボウ	○	○
21	コジュケイ	○	×
22	クイナ	○	×
23	バン	○	○
24	コチドリ	○	×
25	タゲリ	○	×
26	タシギ	○	○
27	ユリカモメ	○	○
28	セグロカモメ	○	○
29	シラコバト	○	○
30	キジバト	○	○
31	アオバズク	○	×
32	アマツバメ	○	×
33	カワセミ	○	○
34	アオゲラ	○	×
35	アカゲラ	○	×

No.	種名	昭和	平成
36	コゲラ	○	○
37	ヒバリ	○	×
38	ツバメ	○	○
39	キセキレイ	○	○
40	ハクセキレイ	○	○
41	セグロセキレイ	○	○
42	サンショウクイ	○	×
43	ヒヨドリ	○	○
44	モズ	○	○
45	チゴモズ	○	○
46	キレンジャク	×	○
47	ジョウビタキ	○	○
48	トラツグミ	○	×
49	シロハラ	○	○
50	ツグミ	○	○
51	ウグイス	○	○
52	オオヨシキリ	○	○
53	セッカ	○	○
54	コガラ	○	○
55	シジュウカラ	○	○
56	エナガ	○	×
57	メジロ	○	○
58	ホオジロ	○	○
59	カシラダカ	○	×
60	アオジ	○	○
61	カワラヒワ	○	○
62	マヒワ	○	○
63	アトリ	○	×
64	シメ	○	×
65	スズメ	○	○
66	ムクドリ	○	○
67	オナガ	○	○
68	ハシボソガラス	○	○
69	ハシブトガラス	○	○
	合計	68種	51種

## サギのねぐら確保に協力依頼

橋口長和 (春日部市)

チュウサギやアマサギは、秋の渡りの前に群れでねぐらを形成します。1998年まで、越谷市と松伏町の間の古利根川河川敷の雑木林をねぐらとしていた約1000羽の群れは、下草狩りと釣り人の侵入で散ってしまいました。

今年に入って、約2km下流の中川と新方川合流点左岸に新たにねぐらが形成され、約1200羽のチュウサギ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ゴイサギが確認されています。

橋口が以前下草狩りでご協力いただいた埼玉県中川・綾瀬川総合治水事務所に連絡したところ、その場所の下草狩りを、渡りが終わるまで延期していただくことになりました。

その場所の半分は国土交通省関東地方整備局江戸川工事事務所の管轄でもあり、今後、同事務所にも協力をお願いすることになっています。(9月7日現在)

## 「バードウォッチング講座」実施

増尾 隆 (坂戸市)

9月14日、坂戸中学校文化祭体験学習「バードウォッチング講座」を実施致しました。テーマは「自然環境と野鳥」。早朝からの雨も止み、校庭で担当の原先生のご挨拶のあとカラスの識別の予習をして、9時45分出発。

稲荷久保公園では、樹上の鳥の巣がキジバトのものかカラスのものか、グループに分かれて意見交換。コース中唯一の水辺になる遊水池では、ゴイサギ成・幼鳥の識別の勉強。千代田公園は鳥影が見られなかったため、カービングを使ってのフィールドスコープ操作練習を、全員が交代で行ないました。

予定通り11時30分、学校に帰着したものの終了時間が急ぎょ短縮されたため、最後のまとめは時間切れに。でも無事終了しました。

住宅地や交通量の多い道路等、野鳥の少ない環境で、生徒に感動を与えられたか、興味を持たせられたか、本当に難しい「バードウォッチング講座」でした。参加者：生徒22名、保護者2名、担当教員1名。指導員：4名。

## タカを満喫…佐世保の旅

百瀬 修 (さいたま市)

こんなに沢山のアカハラダカの群れを見たのは初めてです。佐世保の烏帽子岳(568m)で、長崎県支部の定点調査のお邪魔にならぬよう、でも一緒に観察してきました。

9月18日は7時から16時、翌19日は7時から11時の間に、対馬・韓国からフィリピンの南へ渡る途中のアカハラダカ1540羽、ハチクマ150羽が見られました。ピークは8時、10時、14時。8時に見られるものは烏帽子岳に一泊したもの、10時のは対馬から、14時のは韓国南部から飛来したものという長崎支部の方の言です。

アカハラダカは体長30cmでキジバトより少し小さいタカですが、30羽、50羽、100羽と次々に、頭上近くを飛翔する姿はまさに壮観。興奮と感動を覚えました。お気の毒だったのは、ワシ・タカ狂のMさん。あまりの数に消化不良をおこし、本当に体調を崩されてしまいました。いつもなら嬌声歓声をあげて喜ぶところが、黙って見るだけ。群の通過後はまた、車に戻って横になる姿はまことにお気の毒でした……翌日はご本復。

長崎県支部の鴨川支部長に大変お世話になりました。夜は美味しい活き魚の店へご案内いただき、オコゼの刺身など佐世保の珍味を満喫。翌日の昼は有田市の有田焼ギャラリーへもご案内ねがいました。二千脚以上の中から選んだ好みのカップでいただくコーヒーのリッチな味わいに、旅の疲れが癒されました。

有明干潟でシギ・チドリを見ていたら、近くで釣りをしていたおじいさんが「沢山いる所へ案内してあげる」。喜んでついていった場所では、大小様々のムツゴロウが元気よく闊歩？していました。でも鳥の姿は少ないのです。おじいさんは我々を、ムツゴロウを見にきた観光客と早合点したようでした……旅は道連れ世は情け!

4日間で合計50種の鳥が見られました。最後に太宰府の天満宮へ参詣、境内の松嶋茶屋では、懐石料理でビールを飲みながら、この旅の楽しさを心ゆくまで味わいました。



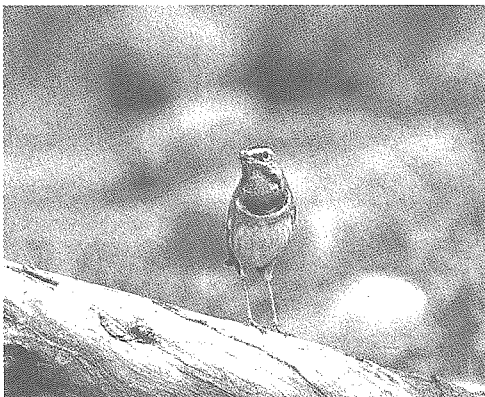
さいたま市三橋1丁目 ◇7月18日、ヒクイナ1羽、わずかに残った水田、よく鳴きながら移動するも、稲はそよりともしない。まるで忍者のよう。黒い影をチラリと見た。7月20日まで短期の滞在。当地で私は初確認。コチドリ3羽、休耕田で一休み。カイツブリ3番い、わずか1キロの間の鴨川にヒナ3羽、4羽、2羽と子育て中。一度目は増水で流され、二度目の繁殖、頑張れ。9月18日、鴨川でヨシゴイ若鳥2羽、仲良く水辺のアシ原に。9月23日、コガモ9羽(浅見健一)。

さいたま市大宮駅前 ◇8月2日、チョウゲンボウ♀1羽、そごう看板にとまっているカラス2羽を、するどく鳴きながらしぶとく攻撃。退散させた(浅見健一)。

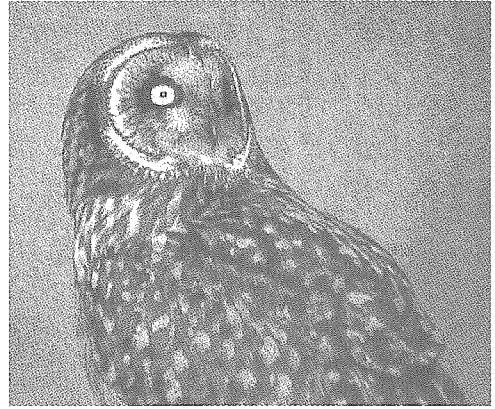
さいたま市別所沼 ◇8月、奥の中洲の杭でカワセミ1羽、5年目位かも。今年もありがとう。猛暑のうちは別荘地にでも行って来たのか、色艶もよくなって(小川力雄)。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇9月7日、大久保農耕地でチョウゲンボウ5羽、ムナグロ40羽。ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ約40羽。内10羽がトラクターの後ろをついて歩いてた。よく事故にならないものだと感心してしまった(小林茂・ますみ)。

さいたま市日進町 ◇9月23日、コサメビタキ2羽以上、ヤマガラ1羽。桜並木でツツ



オガワコマドリ(外園たけの)



コミミズク(海老原美夫)

ドリ若鳥2羽(浅見健一)。

蓮田市黒浜沼 ◇8月16日午後2時30分頃、電線にツバメとともにショウドウツバメ2羽。西上空をサシバ1羽がカラスに追われて飛び去った(鈴木紀雄)。

蓮田市東 ◇7月14日、今日も蓮田駅の駅前団地の共同アンテナでカッコウが盛んにさえずってくれました。今夏は市街地でカッコウが盛んにさえずっています。オナガが例年に比べ多く、カッコウが市街地にまで来てくれるのは、そんなところにも原因があるのかな。住民は、カッコウのさえずりを歓迎している反面、朝早くからのオナガの声に悩まされております(田中幸男)。

岩槻市高曽根 ◇8月17日午前9時30分頃、しらこぼと水上公園西側の水田の畔にオオジシギ1羽(鈴木紀雄)。

岩槻市文化公園 ◇8月21日午後4時頃、木立にツツドリ1羽。胸から腹の横斑がよく見えた。

8月23日午前8時30分頃、トケン類(ツツドリ?)が一瞬見えたが林の奥へ飛び去った。西上空をサシバが通過。ムクドリ10羽の群れの飛ぶ中にコムドリ♂1羽が混じっていた(鈴木紀雄)。

川口市差間 ◇9月1日午後3時頃、芝川第一調整池で、上空をサシバがクルクル回りながら高度を上げていった(鈴木紀雄)。

春日部市新方袋 ◇9月4日午後3時、林縁の枝でオオタカ幼鳥2羽。巣立った後も一緒に行動しているのか、オナガが騒いでい

た(鈴木紀雄)。

妻沼町、熊谷市境 ◇8月10日午後4時頃、江袋沼で7月23日～24日に見つけた個体と異なるアカガシラサギを見つけました。前は成鳥・夏羽でしたが、今回は幼鳥・夏羽でした。撮影にも成功しました(嶋田知英、渡辺俊朗)。

熊谷市久保島 ◇8月15日午前8時30分～8時50分、埼玉県農林総合研究センター内の水田でセイタカシギ♂♀各1羽、幼鳥2羽(多分家族と思われる)を確認した。農業調査のため同水田に人が入ったので、北に向かって飛んでいった(渡辺俊朗)。

川越市南古谷 ◇8月23日午後2時30分頃、タマシギ♂1羽、ヒナ4羽。トウネン1羽、タカブシギ1羽、ジシギ類1羽。上空をショウドウツバメが飛び回っていた。9月5日午後2時30分頃、ジシギ類3羽、タカブシギ1羽、コチドリ多数の中にイカルチドリ1羽(鈴木紀雄)。

◇8月31日、雨上がりの直後、田んぼでオオジシギ3羽、コチドリ3羽、タカブシギ3羽、イソシギ1羽、アカエリヒレアシシギ1羽。

9月1日、田んぼは干上がり、タカブシギ、コチドリはいましたが、アカエリヒレアシシギは確認できませんでした(米澤園子)。

川越市萱沼 ◇9月5日午後3時30分頃、ピン沼でコガモ5羽(鈴木紀雄)。

狭山市智光山公園 ◇9月8日午後2時頃、オシドリ♀4羽、ひょうたん池の水面に張り出した枝にとまって休んでいた。すぐ近くにカワセミ♂若鳥1羽(石井章・治美)。

所沢市山口 ◇9月14日朝、イカルがオナガの群れに混じってケヤキにとまった。オナガの声の中に違う声が聞こえたので、窓か



コウノトリ(外園たけの)

ら見ると5メートル程先のケヤキの天辺で何やら食べていた。よく見ようと立ち上がったら飛んでしまった(小林ますみ)。

川本町上原 ◇9月25日午前7時10分頃、家の北東に見える屋敷林の上空より、キジバトらしき鳥を追ってオオタカが現れた。8月4日以来の再会である(あの時のオオタカと同じかは不明)。その後、カラスに追われ、「ケッ、ケッケッ」と鳴きながら南の田畑の上空へ向かったが、狩りには失敗したようだ(大澤あつし)。

奥武蔵、蕨山 ◇9月29日午後12時40分頃、1044mの蕨山山頂直下でサシバ45羽のタカ柱。旋回上昇し、気流をつかんで南西に急速に流れ、渡りについたか! その直後、同山南面の樹林のすぐ上をハチクマ1羽が旋回中を、上から見下ろす。9月のカレンダーそのもの。さらに有間山の北斜面をハチクマ1羽、旋回しながら南西の稜線に消えた(松井昭吾)。

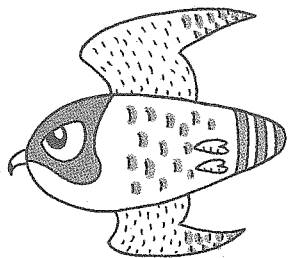
表紙の写真

トラフズク(フクロウ目フクロウ科トラフズク属)

この鳥を初めて見たのは、もうずいぶん昔のことだ。Eさんの案内で見沼たんぼ近くの某所に行くと、エッこんな所にとするような小さな木に止まっていた。いかにもフクロウの仲間らしい立派な姿に、こちらもなんとなく居住まいを正して「どうもお騒がせします。ご迷惑でしょうが、少し見させてください。」と神妙にしていたような記憶がある。

写真・外園たけの(春日部市)文・編集部

# 行事あんない



(何森 要)

## 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月4日(日)  
集合：午前7時30分、丸山公園北口駐車場。  
交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:07発で「前原」下車、徒歩約10分。  
解散：午前11時ごろ。  
担当：中里、大坂、阿久沢、永野(安)、永野(京)、山野  
見どころ：落ち葉を踏みしめる音が心地よく聞こえます。早起きは三文の徳、清涼な空気の中での早朝探鳥会です。冬の鳥たちも勢ぞろいして私たちの訪れを待っています。あの赤い鳥に会えるといいな。

## 栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：11月8日(木)  
定員に達したので締め切りました。

## 長野県・白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：11月10日(土)～11日(日)  
定員に達したので締め切りました。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月11日(日)  
集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。  
担当：和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

松本、高橋、後藤、藤田

見どころ：木の葉も落ちるころ、冬の風を感じるようになってきました。例年このころにはコハクチョウもご到着、当地で見られるカモ類のほとんどがそろいます。ジョウビタキ、シメも楽しみです。そろそろ防寒着のご用意もしててください。

## 「しらこぼと」袋つめの会

とき：11月17日(土)午後1時～2時ごろ  
会場：支部事務局108号室

## 富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月18日(日)  
集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口。  
担当：高草木、佐久間、石井(幸)、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、藤沢

見どころ：うれしい冬鳥の到来。カモたちの団体で着水する姿を見ながら、今年もやってきた見事な冠羽のタゲリ、中州のタシギなどを楽しみましょう。身近な鳥がたくさん待っています。

## さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月18日(日)  
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。  
後援：さいたま市立浦和博物館



担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、  
若林、兼元、森（力）、清水、小菅、  
新部

見どころ：晩秋の見沼は楽しい。秋風が田んぼを吹きぬけ、澄んだ空気の向こうに雪を抱いた富士山が見える。鳥たちもにぎやかに斜面林の木々に群れる。芝川でカモたちがきれいな羽の色を見せる。ああ、モズがけたたましく高鳴きをしている。

#### 春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月23日（金・祝）

集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス1番バス停前。集合後8：45発春日部エミナース行きにて「高野台（こうやだい）」下車。または午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

担当：吉安、中村（榮）、橋口、新井（良）、松永、宮下、吉岡（明）、田村、廣川

見どころ：静かな晩秋の公園をゆっくりと歩きます。小さな里山の公園ですが、じゅうぶんに里の鳥を楽しめます。久しぶりにジョウビタキ、ツグミ、アオジなどとの再会に期待しましょう。

#### さいたま市・染谷見沼自然公園探鳥会

期日：11月23日（金・祝）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場（さぎ山記念公園南西隣）。

担当：工藤、兼元、森（力）、吉岡（洋）、日根、松村、百瀬、渡辺（嘉）

見どころ：コース途中に公共施設が計画され、少しずつ開発が進む見沼田んぼです。9月には、ノビタキ・ショウドウツバメ・サシバが渡り、コガモが帰ってきています。冬鳥も多くみられ身近に自然が楽しめるコースです。

#### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月25日（日）

集合：午前8時50分、JR高崎線本庄駅北口。集合後、十王バス新伊勢崎行きにて「坂東大橋南詰」下車。または午前9時30分現地集合可。駐車は土手側にのみお願いします。

担当：北川、倉崎、堀（敏）、堀（久）、藤田、小池（一）、小池（順）

見どころ：渡ってきたカモたちとの再会が楽しみです。オカヨシガモの多いのがこの特徴です。さて今年は何種きているのでしょうか。川面を渡る風は冷たいので防寒対策もお忘れなく。

#### 野田・清水公園探鳥会

期日：11月25日（日）

集合：午前9時30分、清水公園仁王門前。  
交通：東武野田線大宮8：19発、春日部8：48発柏行きにて清水公園下車。徒歩約10分。

担当：中村（榮）、新井（良）、吉岡（明）、田邊、本田、大塚、小菅

見どころ：紅葉できれいに彩られた公園と湿地や遊水地の周辺を歩きます。冬鳥も出そろい、皆さんを待っています。ジョウビタキ、アオジ、カワセミやカモの仲間たちを探しましょう。

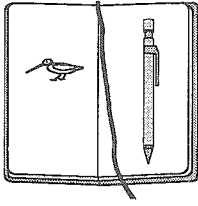
#### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月25日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。  
交通：西武新宿線本川越8：42発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光

見どころ：91年11月に定例探鳥会となってから10周年を迎えました。参加者の顔ぶれ、コースの景観などもずいぶん変わりました。でも変わらないのは、鳥好き自然好きの心です。これからも変わることなく回を重ねていきたいと思えます。



# 行事報告

6月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 53人 天気: 快晴

カイツブリ カルガモ コジュケイ キジ バン  
キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ  
ツバメ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキ  
リ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ  
カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス  
ハシブトガラス (24種) ふれ合い橋で鳥を探して  
いると、カワセミが2羽、目の前を通過して林の  
中に飛び込んだ。背中ブルーがとても印象的。  
民家の近くでは、ブッシュの中に居るコジュケイ  
をみんなで観察。鳴き声で我々の道案内をしてく  
れたアオゲラが、最後に姿を見せてくれた。スズ  
メの白化個体の勉強のおまけつき。(岡安征也)

6月17日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 66人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コ  
サギ カルガモ コジュケイ キジ イカルチド  
リ イソシギ キジバト カッコウ ホトトギス  
カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキ  
レイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ  
モズ トラツグミ ウグイス オオヨシキリ セ  
ッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ ス  
ズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシ  
ブトガラス (34種) 多和目橋近くでキジのみが朝  
の挨拶。ヤマセミに期待して参加された皆様には、  
今年は見ただけで営巣なしの話を。天神橋を渡っ  
た上流では、カワセミがホバリング、ダイビング  
のお披露目と、赤い口を大きくあけてオオヨシキ  
リが歓迎してくれた。(藤掛保司)

6月30日(土) 上尾市 八枝神社

参加: 17人 天気: 曇

(0種) アオバズクは、今年は4月にちょっと鳴  
き声が聞こえたきり、声も姿も確認できないまま  
当日を迎えた。参加者34個の目で探したがやはり  
見つからず、残念ながら解散。ところが、どうし

てもあきらめきれない5人が闇の中でねばってい  
たところ、はるばる岡部から参加した方が見つけ  
てくれた。もう少し早く出てくれればよかったの  
に。皆に見せたかったなあー。(高 文子)

7月1日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 41人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ササゴイ ダイ  
サギ カルガモ トビ バン イソシギ コアジ  
サシ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ ハ  
クセキレイ ヒヨドリ モズ コヨシキリ オオ  
ヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズ  
メ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブ  
トガラス (27種) 暑さを避けるため集合を1時間  
早めたが、風があって比較的しのぎやすかった。  
アシ原浄化ゾーンの工事で水が入る時期が遅かっ  
たため、ササゴイとヨシゴイの繁殖場所が北側に  
偏り、コースでは数が少なかった。しかし、コヨ  
シキリ、オオヨシキリ、セッカは間近で観察でき  
た。カッコウはオオヨシキリに見破られたのか、  
年々数が減っているようだ。(橋口長和)

7月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 27人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ トビ  
コジュケイ バン イカルチドリ キジバト カ  
ッコウ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキ  
レイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オ  
オヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ  
カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス  
ハシブトガラス (26種) 電線に今季生まれのツバ  
メ、暑さに負けず轉るホオジロ、口を開き体温調  
節するハシボソガラス。人は木陰で小休止。水辺  
ではカルガモ、カイツブリのファミリーが出迎え  
てくれた。(島田恵司)

7月15日(日) さいたま市 三室地区

参加: 25人 天気: 晴

カワウ コサギ ゴイサギ アオサギ カルガモ  
 コジュケイ コチドリ イソシギ キジバト カ  
 ッコウ カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ  
 ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ  
 モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ  
 ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナ  
 ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 梅  
 雨明けで暑い日が続くので探鳥会の実施に苦労し  
 た。しかし、この暑さでも鳥たちは頑張っている  
 のだからと実施。コースを、暑いところは早いう  
 ちに、暑くなったら日陰と考えたこともあってカ  
 ッコウ、カワセミも出て楽しい夏の探鳥会だった。  
 (楠見邦博)

7月15日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園  
 参加: 36人 天気: 晴

カワウ アオサギ カルガモ オオタカ コジュ  
 ケイ キジバト ホトトギス コゲラ ツバメ  
 セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス エナガ  
 シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ  
 スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (20  
 種) やはり夏は鳥が少ない。林内で下草を刈って  
 ある所では、山百合、桔梗が、一輪、二輪と咲い  
 ていた。オオムラサキは数多くをゆっくり見られ  
 た。  
 (佐久間博文)

7月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会  
 ボランティア: 14人

伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂幸男、小  
 川晴美、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、島田沙織里、  
 島田貴子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎  
 夫、百瀬修

7月22日(日) 狭山市 入間川  
 参加: 22人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ササゴイ コサギ カルガ  
 モ ツミ コチドリ イカルチドリ イソシギ  
 キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ  
 ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ  
 オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ  
 ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナ  
 ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 炎  
 天下を避けて橋の下の日陰で鳥見。カルガモの親  
 子、ツミ、カイツブリなど、意外と鳥が見られる。  
 いっそのこと、夏は日陰で定点観測と懇親会にし

てしまおうか。

(長谷部謙二)

8月12日(日) 熊谷市 大麻生  
 参加: 10人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
 ギ カルガモ トビ バン キジバト カワセミ  
 ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ ホオジロ  
 カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ  
 ソガラス ハシブトガラス (24種) 8月は例年猛  
 暑の大麻生。なのに、こんなに涼しいなんて。ち  
 よっと記憶にない。鳥影は薄かったが、植物を見  
 ながら、土手を渡る涼しい風に吹かれながらの  
 んびり探鳥会だった。最後の鳥合わせの時、よう  
 やくトビが目の前を舞ってくれた。(中里裕一)

8月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会  
 ボランティア: 9人

新井浩、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂  
 幸男、成瀬慶一、増尾隆、松村禎夫、百瀬修

8月19日(日) さいたま市 三室地区  
 参加: 60人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサ  
 ギ カルガモ オオタカ バン コチドリ イソ  
 シギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ イ  
 ワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキ  
 リ シジュウカラ メジロ スズメ ムクドリ  
 コムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシボソ  
 ガラス (26種) 小学生を含んで、たくさんの参加  
 者があった。博物館を中心にした鳥見の集まりが  
 定着してきた。鳥の方もサービスしてカワセミは  
 3回も出現。オオタカやコムクドリも出てにぎや  
 かだった。安全と人の和を考える探鳥会でありた  
 いと再度考えた日であった。(楠見邦博)



6月24日総会後の懇親会(事務局)

## 連絡帳

### ●野生生物保護法制定等を求める署名運動

野生生物保護法制定を求める全国ネットワークは、2002年が「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律」（鳥獣保護法）を見直す年であり、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）制定10周年の年でもあることから、国会に対し、次の請願をする署名運動を始めています。

- 1, 現行の「原則どこでも狩猟ができる」から、「管理猟区のみ狩猟許可」への抜本的改正、有害鳥獣駆除制度の改正など、鳥獣保護法の改正を求めます。
- 2, 種がそれぞれの地域の群れとして保護されること、絶滅のおそれがあるすべての種の生息地の保全・回復をすすめ、破壊を防ぐ仕組みなどを導入し、種の保存法を実効力のある「野生生物保護法」に抜本改正するよう求めます。

このネットワークには当支部も団体会員として加入し、協力しています。問い合わせ、署名用紙の請求、書名送付先は、野生生物保護法制定を求める全国ネットワーク  
169-0073 新宿区百人町2-5-5-205  
TEL兼FAX 03-3365-0416  
e-mail zb4h-kskr@asahi-net.or.jp  
http://www.asahi-net.or.jp/~zb4h-kskr/wildlife

### ●猟期中、ご注意!!

11月15日から2月15日までは狩猟期間です。目立たない服装で藪の中にいたりすると、近くで発砲されたり、誤射される危険もあります。狩猟が行われているところでは、そこにバードウォッチャーがいることがわかるように行動することが必要です。林の中の罠なども危険です。くれぐれもご注意ください。

狩猟に関する問い合わせや連絡は、県みどり自然課野生生物担当 TEL 048-830-3154へ。

### ●ごめんなさいコーナーの続き

9月の袋づめの会、PRが何とか間に合ったのか、違う日に来られた方はゼロでした。ひとまずホッ。

### ●11月の事務局 土曜と日曜の予定

- 3日(土) 12月号編集。
- 10日(土) 12月号校正。
- 17日(土) 12月号袋づめの会。
- 18日(日) 役員会。

### ●会員数は

10月1日現在 2,769人です。

## 活動報告

- 9月9日(日) 評議員制度検討委員会に出席(海老原美夫)。
- 9月15日(土) 10月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、山部直喜)。
- 9月16日(日) 役員会(司会:藤掛保司、講師派遣依頼への対応・メールによる雨天中止連絡システムに関する意見交換・本部の検定制度に関する意見交換・その他)。
- 9月25日(火) 10月号発送(倉林宗太郎)。

## 編集後記

タカの渡り調査のお手伝いに天覧山に。目的のサシバは前々日オーバー100、前日約50との情報。天気は快晴。今日はさぞかし、と北の空を睨むこと3時間。トビ、オオタカ、ハイタカ、ノスリがはるか彼方に時々チラチラ…サシバはとうとう欠席。その夜、寝床で目をつぶると、本当に綺麗な青空が、まだ、見えた。(山)

しらこぼと 2001年11月号(第211号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社